

# NCS

Nature Conservation  
Society of Hokkaido

# HOKKAIDO

2009年7月 NO.142

..... CONTENTS .....

2009年度通常総会の概要	2	コラム	富山 武道	11
「自然を語る会」開催のお知らせ	7	「第16回夏休み自然観察記録コンクールのご案内」		12
お知らせ 今本先生の講演会	7	お知らせコーナー		12
サンルダム本体工事の問題点		活動日誌・要望書・新会員紹介・		
..... 佐々木克之	8	寄贈図書・寄付	他	
八木健三会長と北海道の自然保護運動				
..... 成瀬 廉二	10			



夕張岳登山道のシラネアオイ

(撮影 荻田 雄輔)

# 2009年度 通常総会の概要

日 時：2009年5月16日（土） 13：00～14：40

場 所：北海道大学クラーク会館 講堂（札幌市北区北8条西7丁目）

総会員数は779名（過半数390名）の内、会場出席者36名、委任状提出者389名で合計425名となり、定款上の定足数に達している事が確認され総会は成立。

この後、出席者の中より戸津会員を議長に選出し、議案の審議に入る。

佐藤会長 本日は土曜日にも関わらずお集まりいただき、お礼申し上げます。この1年も北海道の自然が各地で破壊され、できる範囲で運動を進めてまいりましたが、なかなか成果が上がりず問題点も多い状況です。1年に1度の総会ですので、今後の方向を考えるために忌憚のない自由な意見交換をお願いします。

## 第一号議案 2008年度事業報告、収支決算報告および監査報告

(1) 2008年度の事業報告について、佐藤会長から議案書に基づき説明が行われた。

一般事業の中身では、1：会員の状況は、779名で減少傾向が継続しております。高齢で物故された方がおり、新たな会員の獲得が課題です。2：広報事業としては会誌と会報を予定通り発行しました。3：普及事業では(1)夏休み自然観察記録コンクールを例年通り実施しています。(3)自然を語る会と(4)自然保護大学はあらたな事業で、活動の目玉として実施しましたが、参加者は想定より少数でした。4：調査研究および自然保護活動のうちで、(1)意見書・要望書では、協会単独で8件の意見書・要望書を出しました。(2)他団体と連名で提出した意見書・要望書は18件あり、それらはサンルダム、平取ダムや大規模林道、国有林の森林政策関連のものが主体です。北海道にはエゾシカ管理計画で意見書を提出しています。(3)運動は、意見書・要望書と連動しています。大規模林道、国有林関連では他団体と協働しました。②、⑤、⑥と⑦は協会単独です。④は北見の自然風土を考える会と協働し、⑧のG8サミット関連でも他団体と協働しました。大きく言えばダム問題、大規模林道、国有林民有林の森林政策や無駄

### ◇議案1：2008年度収支決算

決算報告（2008年4月1日から2009年3月31日まで）

#### 一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
(会費収入)	(4,507,000)	(管理費)	(2,239,497)
個人会費	3,037,000	賃金	958,080
団体会費	1,470,000	会議費	0
(一般事業収入)	(343,503)	旅費交通費	181,840
一般事業収入	343,503	通信運搬費	110,203
(寄付金収入)	(287,000)	消耗品費	2,792
寄付金	287,000	燃料費	52,676
(雑収入)	(117,672)	印刷製本費	0
受取利息	2,022	光熱水量費	82,399
雑収入	115,650	賃借料	764,448
(前期繰越収支差額)	(1,675,348)	諸会費	51,000
		図書資料費	0
		支払手数料	4,775
		租税公課	30,555
		雑費	729
		(一般事業費)	(2,953,301)
		広報事業費	1,715,663
		普及事業費	1,237,638
		(調査研究等事業費)	(68,376)
		調査研究等事業費	68,376
		(予備費)	(0)
収入合計(A)	6,930,523	支出合計(B)	5,261,174
		次期繰越収支差額(A)-(B)	1,669,349

な公共事業（北見道路、釧路自然再生）が主要な内容です。夕張と日高の国立公園化も今後の大きな課題です。なお、委託調査を行っていないので特別会計事業はありません。

以上です。皆様のご意見、ご批判をお願いします。

(2) 2008年度の収支決算について、佐々木副会長から議案書に基づき説明が行われた。

収入の部では会費収入が293,000円の赤字ですが、個人会員の会費は黒字で、団体会員の会費が赤字です。一般事業収入と寄付金収入の詳細は欄外にあります。支出の部では、管理費に406,583円の残金があり、一番大きいのが旅費交通費で、予算450,000円に対して決算は181,840円でした。これは、年4回開催される理事会に遠方の地方から参加できない理事が多かったために余ったものです。その他の費目では決算が予算を上回っています。一般事業費では広報事業費と普及事業費の2本があり、主に広報事業費の会誌、会報の発行で使いました。調査研究事業費が計上されていますが、活動はわずかでした。

バランスシート上、前期繰越金1,675,348円に対して次期繰越金は1,669,349円とほぼ同額です。個人会費が予算以上に集まったので、バランスよく支出できました。

(3) 2008年度監査報告について、大西監事から監査報告書に基づく監査結果の報告が行われた。

2008年4月1日から2009年3月31日までの期間において、会計、業務の監査を行いました。監査方法の概要として、会計監査では帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる

手続きを行い、計算書類の正確性を検討しました。業務監査については、関係書類の閲覧など必要と思われる手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。監査意見は収支決算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況および財産状況を正しく示していると認めます。事業報告の内容は真実であると認めます。理事の職務執行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。以上です。

この後、第一号議案についての質疑応答が行われた。

会 員 会員数が減少していますが、去年の総会でも同様の報告がありました。執行部として実態をどのように考えておられ、どのように拡大を考えているのでしょうか。学生会員の入会が0なので、若い人が興味を持つアピールが必要なのではないのでしょうか。それによって協会の活動が活発化すると思います。

佐藤会長 おっしゃるとおり、課題と考えています。今回の退会者が多かったのは、長年に会費未納でいた方を

◇議案2：2009年度収支予算

予算計画（2009年4月1日から2010年3月31日まで）

一般会計 (円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	予算額	勘定科目	予算額
(会費収入)	(4,680,000)	(管理費)	(2,519,080)
個人会費	3,000,000	賃金	958,080
団体会費	1,680,000	会議費	10,000
(一般事業収入)	(500,000)	旅費交通費	400,000
一般事業収入	500,000	通信運搬費	100,000
(寄付金収入)	(100,000)	消耗品費	20,000
寄付金	100,000	印刷製本費	0
(雑収入)	(200,000)	燃料費	60,000
受取利息	5,000	光熱水量費	100,000
雑収入	195,000	賃借料	765,000
		諸会費	56,000
		図書資料費	5,000
		支払手数料	5,000
		租税公課	30,000
		雑費	10,000
		(一般事業費)	(2,760,920)
		広報事業費	1,700,000
		普及事業費	1,060,920
		(調査研究等事業費)	(200,000)
		調査研究等事業費	200,000
		(予備費)	1,669,349
当期収入合計	5,480,000	当期支出合計	7,149,349
前期繰越収支差額	1,669,349		
収入合計	7,149,349		

整理したために、大幅に減少しました。今後の考え方としては、先ほどご説明した普及事業の中にある自然保護大学や自然を語る会などを通じて、若い人々にアプローチしたいと思います。かつては日本自然保護協会との共催で実施していた自然保護観察指導員講習会が本協会から分離されましたが、その機会に若い人々を勧誘していたために、それがなくなって入会が減少した面があります。個人的な見解ですが、他団体も含めて種々の企画が多く、埋没して見えにくい面もあると思います。若い人々に楽しく理解していただく企画が必要でしょう。皆さんのご意見を伺いながら、努力してまいります。

会 員 自然保護大学は参加費が7,000円で30名です。参加費が高いのではないのでしょうか。

福地理事 学生として参加するのであれば学生の参加費は5,000円なのですが、PRが足りなかった可能性があります。内容的には妥当だったと思います。しかし、確かに高い可能性もあるので検討します。会員の参加費3,000円は、賛同していただけたのではないのでしょうか。

◆ 第一号議案の承認について議長より採決の提案があり、拍手により承認された。

## 第二号議案 2009年度事業計画、収支予算案

(1) 2009年度の事業計画について佐藤会長から議案書に基づき説明が行われた。

2009年度事業計画は10ページにあるように、2008年度とほぼ同じです。ここ数年は全ての問題に対応してきましたが、逆に言うと集中度合いが低下した面も感じています。一般事業計画のなかでは、1：広報事業と2：普及事業は例年通りの活動です。会員の方の指摘も踏まえより良くしたいと考えています。3：調査研究事業ではダム問題、北見道路、国有林道有林の森林問題を特に重視しています。3)の山岳自然公園も目玉です。4)環境教育関連、5)身近な自然の実態調査などはできる範囲で実施します。4：運動と提言では、単独で行う場合とネットワークで動くものがあります。この中では、1)山の道問題では北海道も費用対効果が示せないでいます。2)ダム問題はネットワーク内で強く取り組みます。4)の森林伐採と生物多様性関連でも引き続き運動します。森林環境税の面でパブコメに意見を出しました。5)は日本の優れた自然としての意味から重要な活動です。8)北見道路とラリー問題は調査に基づいて活動します。9)風力発電の問題に関して、本日、白木理事が東京でシンポジウムに参加しています。道内でシンポジウムが必要かも知れません。10)は今年度の新たな項目で、法人のあり方を検討する必要があります。理事会では専門委員会を立ち上げて、法人の形を検討したいと考えています。会長、両副会長、事務局長、畠山理事等内部で専門委員会を作りたいのでご了承をお願いします。

(2) 2009年度予算計画について、佐々木副会長から議案書に基づき説明が行われた。

引き続き2009年度予算案をご説明します。内容は2008年度を踏襲しています。収入は4,680,000円で、前年より少し減額しています。団体会員が不景気なので、やや少なくなりました。支出の部も127,000円の減額で、各費目とも少しずつ減額しています。前年度少なかった調査事業費も減額しました。2009年も、2008年度と同様にバランスよく支出したいと考えています。

この後、第二号議案についての質疑応答が行われた。

会 員 平均で理事会への出席数はどのくらいでしょうか。

佐藤会長 理事は18人ですが、遠隔地の方が年5回の理事会に参加することは厳しいようです。今年は特に少な

かったようでした。常務理事5人と3役の合計8人で開催される常務理事会には、通常の理事も含めて在札の方が10名弱でいつも大体出ていると思います。理事会に遠隔の方が出ないと残額が多くなります。調査研究費に関しては、なるべく有効に執行したいと思います。一方で、費用がなくても何かの仕事に絡めて協会関連の調査している場合もあります。内容を低下させないようにしています。

会 員 収入で団体会費が前年度147万円でしたが、不景気というご説明にも関わらず2009年は予算額が168万円と増額になっています。これは、どのような理由でしょうか。

江部事務局長 増額にしたのは、前年度未納の団体からの回収も考えているからです。団体会員は、普通であれば年度当初に予算化しているはずですが、不況の反映らしく、脱会に伴って未納なままで終わってしまう特殊事情もあるかもしれません。

会 員 普及事業は重要で、自然保護大学と自然を語る会は参加費がかかっても参加したいのですが、テーマと予定が合わない場合もあって、なるべく多くの人が出やすい予定を考えていただきたいと思います。土日が良いのですが、いかがでしょうか。テーマも早い時期に決めてもらえるとうれしい。運動と提言において1)から11)の項目がありますが、昨年の佐藤会長の生物多様性の講義も踏まえ、来年名古屋で開催される生物多様性関連の国際会議(生物多様性条約10回締約国会議)に、北海道自然保護協会として4)公益的機能を中心にして参加したらどうでしょうか。市民の中で生物多様性は意識されていますが、まだ不十分です。提言の中にきちんと取り入れていただきたいと思います。

佐藤会長 生物多様性は、自然全体、地球全体に広がるテーマといえます。絶滅していく生物に特化する立場もありますが、さまざまな階層の生物を考えることも大きなテーマです。国立公園化や林業において伐採しない場合も、生物多様性につながります。うまく説明して、わかりやく書く必要もあると思う一方で、開発側に対して屁理屈は論破してやらないといけません。わかりやすさと論破を両立させないといけないので、皆さんのお知恵を借りたいと思います。

会 員 特別会計に該当しないが、決算報告で雪だるま資金の収支説明報告が一切なかったが、雪だるま基金についてはどう考えているのでしょうか。

佐藤会長 八木会長の時代に、基金を作りました。今回も50万円の寄付がありました。あくまでも会員の総意で使う基金ですので、いつか一般事業に組み入れることになるかも知れませんが、現在は印刷物などで使用しています。社団法人のあり方としてあまり財産が多くなると指摘されるので、皆さんに決めていただき、北海道の自然を守るために有効に使いたいと考えています。

◆ 第二号議案の承認について議長より採決の提案があり、拍手により承認された。

第三号議案 その他質疑応答として会員と役員の見解交換が行われました。

会 員 日本自然保護協会が自然保護観察指導員講習会の事業を切ったということはどのようなことでしょうか。

福地理事 受講者が減少したために、日本自然保護協会がその増加を意図して大学等との共催を考え、北海道自然保護協会とは別個に自然保護観察指導員講習会を行うようになったという意味です。関係が悪化したわけではないと思います。

佐々木副会長 北見道路のお話をお願いします。

会 員 (北見の自然風土を考える市民連絡会事務局長)「北見丘陵の宝もの」というパンフを協会にご協力いた

だいてつくり、3,000人の北見市民に配布し、講演会も実施しました。北海道の予算執行をストップさせたいと思い、監査請求、訴訟等を行いたいのですが、資金が必要です。このため、モモンガクラブを作り、140名くらいの参加者と40万円程度の資金が集まりました。市民の丘を守る意識を高めたいと思い、北見が丘の自然を守る「観音さんの森」というガイドブックを1年がかりで作りました。植物440種、90種の鳥、小動物などが記載され、反響も大きいものです。北見道路の総工費は400億円、約8割の地主から用地を買収済みで、工事は6割ほどが進捗しています。落札率は99.6%で、談合が強く疑われる90%をはるかに越えています。散歩道を守りたいので、開建に要望したい。自然保護協会の協力に感謝します。

会 員 会員減のおり、大人数が獲得できる可能性のある自然保護観察指導員の講習会も復活させてはどうでしょうか。自然保護に目覚めたのは、沼田真さんの書いた「自然保護という思想」でした。当協会の中で、日本自然保護協会が主催する沼田真賞を佐藤会長と小野会員が受賞していることは非常に価値が高いのですが、今後も適切な方を推薦したらよいのではないのでしょうか。また佐藤会長、小野会員の業績も積極的に広めることが良いのではないかと思います。

佐藤会長 日本自然保護協会とは、緊張感を持って接しています。活動がより先鋭になると参加者は少なくなり、一般的になると参加者は多くなります。この点で、日本自然保護協会と北海道自然保護協会は緊張関係にあります。これまで日本自然保護協会、北海道自然保護協会と自然観察指導員の3重の会員もいました。否定的ではないので、相互に影響しあってゆくことが望ましいと思います。

会 員 会員増加について、学生が26名というのはいかにも少ないですね。かつては大学の教員である理事が学生に入会を勧めていたので、理事で教員の方々に勧誘してもらえないのでしょうか。

佐藤会長 わたくしは学生時代から会員でした。会費の低廉化も必要かもしれないので、考えます。今日の情勢では、大学院生は論文執筆活動が主体なので、保護活動に関心を持ってない時代かもしれません。会費なしでも良いかも知れません。

佐々木副会長 日本科学者会議の会員も減少傾向にありますが、昨年の会議において若手に限って発表に賞金を出したら参加者が増えた例もあるので、工夫によっては若い人をひきつけられると思います。

会 員 平取ダムに関連して活動していますが、富川の住民、日高町の議会で反対決議がありました。日高町長が開建に反対決議があることを明言しています。とはいえ内部では発言しにくいので、外部の方々の力が必要です。どなたかがお力を貸していただければお願いしたいと思います。協会が窓口になっていただければ幸いです。

佐々木副会長 協会でなかなか手が回らない現状があります。協同でやる必要がありますが、サンルダムの問題でも下川の方々は大変であることは承知しています。しかし、その一方で地元の人がいることは重要です。どんなことができるか考えたいと思います。

会 員 6月25日の13:30に二風谷ダム・富川水害訴訟裁判があります。地元住民が来るので、ぜひ傍聴していただいて、実情をご理解いただけたらと思います。

在田副会長 どうもありがとうございました。これで通常総会を終了いたします。

以 上

## 2009年「自然を語る会」のご案内

主催：（社）北海道自然保護協会

当協会では昨年より自然や自然保護に関わるさまざまな話題を夕方一時、その時の話題提供者を囲んで多面的に語りあう会を設けました。

自然に関わり、参加された方が日頃より考えている事、感じている事などを忌憚なく話し合える会にしたいと考えております。月1回のペースで、前期4回、後期4回に分けて開く予定でおります。

前期予定を下記のようにご案内いたします。

是非お誘いあわせの上、気軽にご参加くださるようお願いいたします。

### 記

会 場：北海道環境サポートセンター

（札幌市中央区北4条西4丁目 伊藤・加藤ビル4F TEL 011-218-7881）

### 〈前期予定〉

日 時：7月24日（金） 18：00～20：00（終了）

「サンル川の魅力」 話題提供者：橋本 泰子（サンル川を守る会代表）

8月27日（木） 18：00～20：00

「身近な自然を語ろうかい」

話題提供者：久野 裕之（札幌市環境教育リーダー）

9月25日（金） 18：00～20：00

「知床の森」 話題提供者：石川 幸男（専修大学北海道短大教授）

10月23日（金） 18：00～20：00

「発寒川の今と昔」 話題提供者：皆川 國男（札幌市環境教育リーダー）

定 員：50名

参加費：無 料

申込み 北海道自然保護協会 TEL・FAX 011-251-5465

問合せ Eメール nchokkai@polka.ocn.ne.jp

注 意：実施日は会場の空き状況から同じ曜日でない時がありますのでお確かめ下さい。

資料が出る時がありますので用意のため申込みをしていただくようお願いいたします。

事務所職員の不在が続く時がありますので申し込みなどは、FAX並びにメールで申し込んでいただくと確実に受けられます。

### 「今本先生の二風谷ダム・平取ダム建設予定地現地視察と講演会」のお知らせ

▶現地視察：9月18日 9：30までに二風谷ダム集合、夕方まで

二風谷ダムや平取ダム建設予定地を建設担当者に説明願ひ、今本先生に質問していただきます。

▶今本先生（元淀川水系流域委員会委員長）講演会〈ダムによらない治水〉

：9月18日18時～、富川公会堂

日高町富川南1丁目9-1：電話 01456-2-0255（JR日高本線とみかわ（富川）駅近く）

室蘭、苫小牧、日高などの比較的近くの方はぜひお聞きください。

## サンルダム本体着工問題とシンポジウム・サンル観察会

副会長 佐々木克之

### 1. 経 過

魚類専門家会議は、4月7日の会議で「中間とりまとめ」を発表しました。67ページもの長編ですが、肝心のサンルダム魚道によるサクラマス保全については5ページしか割いていません。2006年12月に終了した天塩川流域委員会の「ダム建設によってサクラマス資源の保全に懸念があることから、十分な体制をとる」という意見に基づき設置されたこの委員会なのに、わずか5ページしか述べていないというところに、開発局と魚類専門家会議がこの問題に自信がないことがあらわれていると思います。

2008年夏に、開発局はサンルダム本体工事予算を概算要求したので、水源連の紹介によって公共事業チェック議員の力で、財務省ダム担当官へ要望書を提出し、説明を行う機会を得ました。そのことが関係したかどうかは不明ですが、財務省は2008年末に漁協の同意を条件に本体工事予算をつけました。

2008年5月に、開発局は、漁協の同意を得たということで、本体工事に着工することを明らかにしました。5月13日の新聞は、漁協は「ダム完成後も水をためず、魚道施設の効果（注：サクラマス保全の効果）を検証する」という条件付きで同意し、「対策の効果がなければ、ダムの運用停止を求める」と述べた、と報道しました。

### 2. 漁協同意問題

2. 1 漁協同意内容・・・開発局・魚類専門家会議は、「サクラマスの海に降る幼魚（スモルト）は、ダム湖を下ることができないので、工夫してスモルトがダム湖に入らず、魚道を下るように努める。工夫する間は、ダム湖に水を貯めずに、ダムがあっても川の状態を維持して、スモルトが降下できるようにする。工夫が成功してスモルトが魚道を十分下ることができるようになれば、ダム湖に水を貯める」考えを示し、漁協はこの考えをよしとして本体工事に同意しました。
2. 2 サンルダム魚道とは・・・ダム直下からサンルダム提体の常時満水の高さまでの標高差が29mあります。ダム直下の川から魚道をジグザグにつくり、提体の上に達すると、ダム湖に沿って約8kmの水路をつくり、ダム上流のサンル川と接続します。スモルトと水を仕分けする分水施設をつくって、サンル川から降ってきたスモルトは魚道へ、大部分の河川水はダム湖へと振り分けようとするのが、開発局の工夫です。この方式は新しいものではなく、道南の後志利別川上流の美利河（びりか）ダムですでに作られ、2005年以降に試験が行われていますが、成功していません。
2. 3 サンルダム魚道の効果の把握・検証・・・前述の「中間とりまとめ」は、「ダム本体完成後において魚道施設の効果を把握・検証するまでの措置として、スモルト降下期の貯水位を低下させる運用（暫定水位運用）を行う。」と述べています。この暫定水位運用は、漁協同意内容に出てきた「ダム完成後も水をためず・・・」のことです。

この中間とりまとめの意味するところは重大です。天塩川流域委員会の意見を抜粋すると「サンルダムによる影響を懸念する意見が出されたので、事前の段階から必要に応じて試験を行い、その対策の効果を確認しながら、サクラマスの生息環境の推移を継続的にモニタリングし、その結果に基づきさらに必要な対策を講ずることができる体制を整備する」と述べています。意見では「事前の段階から必要に応じて試験をする」と述べていますが、中間報告では「ダム建設後に試験をする」となっていて、流域委員会意見を無視したものとなっている点が極め

と重大です。私たちは、漁協もこの意見に基づいて、ダム建設前の試験を求めるべきではなかったのではないかと考えています。

### 3. 今後の取り組み

さまざまな問題がありますが、ダム建設前に魚道の効果試験を行うべきであるとのことを、開発局はもちろん、財務省や環境省などへも要望していくことを重点とすることを計画しています。

世論に訴えていく活動としては、川の魅力を考え、その上で人と川の間をサナル川を中心に考える以下のシンポジウムを企画しました。8月に入ってこのシンポジウムのチラシを作成し、大いに宣伝もします。旭川での開催となりますが、ぜひ多くの方々に参加されるよう訴えます。また、サナル川のサクラマス産卵観察会も企画されていますので、多数ご参加ください。

#### 3. 1 シンポジウムのお知らせ・・・人と川 そのつながりーヤマメ湧く川は今ー

10月3日(土) 10:30~16:30 旭川サンアザレア

第一部；川の魅力 10:40~12:10

森と川と人のつながりー北海道の川の特徴と変貌ー……………中村 太士(北大教授)

サクラマスの魅力……………ト部 浩一(道立水産孵化場)

第二部；人と川 13:00~15:00

川に生かされるー淀川からの発信ー……………宮本 博司(前淀川流域委員会委員長)

素晴らしきサナル川……………宮田 修(下川自然を考える会)

名寄川の治水を考える……………出羽 寛(元天塩川流域委員会委員)

地方財政とダム……………山城えり子(環境ネットワーク旭川地球村)

第三部；総合討論ー人と川との共存を考えるー 15:10~16:30

#### 3. 2 自然観察会 サナル川でサクラマスの産卵を見てみよう！(主催：下川自然を考える会)

旭川から貸切バスが用意されます。先着50名、お早からお申し込みください。

■日 時；9月20日(日) 12:30~16:00

■集 合；※自家用車 12:00…にぎわい広場(上川郡下川町共栄町、2両の客車が目印です)

※貸切バス 10:00…旭川市役所(正面裏の第2庁舎側)、

10:05…JR旭川駅前

※昼食は各自イベント前に済ませてください

■参加費；500円

■募集人数；50名/要申込み

■持ち物；汚れても良い服装・靴や長靴、雨具(天候に応じて)、偏光グラスなど

■協力；サナル川を守る会、(社)北海道自然保護協会、旭川・森と川ネット21、ネットワーク地球村

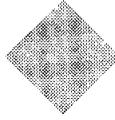
■お問合せ/お申込み(下記のとおりですが、北海道自然保護協会にもお問い合わせOK)

※下川自然を考える会(早田)

TEL:090-8374-5004 E-mail hayata@coral.ocn.ne.jp

※サナル川を守る会(橋本)

TEL:080-3266-2997 E-mail sanru\_hokkaido@yahoo.co.jp



## 八木健三会長と北海道の自然保護運動

元協会常務理事 成瀬 廉二

故八木健三先生が北海道自然保護協会の会長を務められたのは1980年から1990年の10年間であった。そのほぼ同時期、会員になったばかりで諸問題の背景を理解しない単純自然保護派の私が、八木会長から再三にわたって勧誘され、理事の一員として微力ながら協会の運営に関わるようになった。

この10年間は、日本のバブル景気の上昇期だったこととも直接的または間接的に関係があったと思われるが、北海道の開発計画とその反対運動に関して歴史に残る出来事がめじろ押しであった。それらを列挙してみると、日高横断道路（1984年、着工）、千歳川放水路（1984年、具体的計画発表）、幌延放射性廃棄物貯蔵施設（1985年、動燃設置方針決定）、知床国有林（1987年、伐採強行）、士幌高原道路（1987年、工事再開方針発表）、リゾート開発による大規模スキー場（1987年、リゾート法制定）等であった。

これらの問題にどう対応するか、定例の常務理事会や全体の理事会で議論し、ときには激論になった。当時の理事会には、開発計画には原則的に無条件反対の「過激派」と、反対一辺倒では問題が解決しないので要望または計画変更を求める「穏健派」が存在した。当時、私から見て、八木会長は「穏健派」か「現実派」なのかと思ったこともある。しかし、実際は違う。こういう難しい協会内の状況において、八木会長は両方の意見を尊重しつつ、時には自らはやる心を抑えて中間に立ち、大変うまくまとめていたのである。そして、ひとたび協会の態度と方針が決まったら、躊躇することも心変わりすることもなく、まっしぐらに、ひるまず突き進むのであった。

上記の諸問題のうち幌延核施設については、八木会長は理事会等でたびたび熱心に語り、協会として「反対」の旗色を鮮明にしたかっと思われたが、道自然保護協会が目指す自然保護とはやや異質であること、およびこの問題は原子力をエネルギーとして利用することの賛否に関わるという理由で、道自然保護協会の運動としては取り上げないことになった。

他の問題については、協会として本格的に取り組むことを決議し、他の関連団体や機関、組織と連携や協同にて運動を進めて行った。

その中で、千歳川放水路問題は他とは展開が異なった。道路の開発計画へ反対する場合は、道路が建設されることにより失われる自然の大きさとそれが引き起こす影響を、科学的に示しつつ意見を表明すればよい。道路ができることによる便益と損失のどちらが重いかを私たちが比較検討する必要はない。しかし、放水路計画では、開発側は「洪水から人命と財産を守るため」という“錦の御旗”を掲げていたので、「放水路はいらない」と言うだけで反対運動を盛り上げるわけには行かなかった。そのため、放水路に代わる対案を考え、それを提示することになった。開発側は、土木工学、河川工学の技術論で武装しているので、それに真っ向勝負で相手の土俵に上がるのは、勝ち目はないし、得策ではない、と私は思っていた。しかし八木会長は、さまざまな専門家の門をたたき、相談し教示を受け、会談、検討会議を重ね、代替案を次々に提示するという方法を貫き、1999年

計画の中止を勝ちとることができたのであった。

八木会長は、性格は天性の陽、どのような立場の人とでも、初対面でも親しく話をするのが大好きであった。これに加えて、可能な限りどんなところでも、まずは現場へ行き、自分の目で見る、という地質学者と自然探索者の気質をいかに発揮して、多くの問題にそれぞれ深く関わっていたのである。日高横断道路、土幌高原道路も、後に計画の凍結、中止決定にいたるのであった。もちろん、これらは多くの組織、人々の力の結集の成果であるが、八木会長の資質と努力と実行力の効果が少なくないことは誰もが認めることであろう。

(現在、NPO法人 氷河・雪氷圏環境研究舎 代表)

「本文章は、協会誌「北海道の自然」No. 47 (本年3月発行)の「名誉会員 八木健三先生の思い出コーナー」にご寄稿いただいたものですが、電子メール送信に支障があり掲載できませんでした。著者のご了解をえて、ここに掲載いたします。」

## コラム

### 生物多様性条約締約国会議

理事 島山 武道

2010年10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される。しかし、自然保護関係者は別として、一般の関心はあまり高いとはいえない。その理由のひとつは、生物多様性という言葉(考え方)の分かりにくさがある。たとえば、原生的な自然、学術的に貴重な生物、あるいは美しく感動的な風景などを保護することに、正面から反対する人はいないだろう。しかし生物多様性といわれると、何を保護するのか分からないという人が多い。植樹や蛍の放流が自然保護であると思っている人に向かって「遺伝子が攪乱される」といっても、不思議な顔をされるだけである。

さらに、条約の内容や性格も分かりにくい。生物多様性条約は国際自然保護連合(IUCN)が起草したこともあって、当初は自然保護色の強いものであった。しかし、途上国が反発し、開発の権利や遺伝資源に対する主権的権利を強調するものへと変化してしまった。とくに遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)をめぐるアメリカと途上国の利害の対立が激しく、多くの人が、(湿地保護をめざすラムサール条約などとは異なり)生物多様性条約を自然保護条約とは考えていない節がある。

名古屋会議では、生物多様性条約戦略計画、ABSが主要な議題となるが、他に、保護地域、海洋生態系、都市と生物多様性、持続可能な利用(里山)、生態系サービス評価など、多数の問題が議論される予定である。とくに保護地域のあり方については、今年6月に自然公園法が改正され、海域公園地区や生態系維持回復事業の創設、特別地域における動植物の放出などの規制強化がなされた。こうした身近な話題からはじめて、生物多様性の意義や重要性を知ってもらうための取組が必要であろう。

第16回夏休み自然観察記録コンクールのご案内

北海道自然保護協会では、北海道新聞社・北海道新聞野生生物基金との共催により、北海道教育委員会の後援を得て、「第16回夏休み自然観察記録コンクール」を計画いたしました。応募方法は下記のとおりです。

- 募集テーマ** 身のまわりの自然をよく見て作文や絵にくわしくかいてみよう  
**応募資格** 道内に在住する小学生  
**応募規定** 作文用紙は自由な規格。低学年は絵日記ふうなまとめ方でもよい。  
 絵は画材、用紙、大きさ自由  
 応募票（題・学校名・学年・氏名）を添付  
**応募先** 〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5  
 (社)北海道自然保護協会 (TEL/FAX) 011-251-5465  
**応募期間** 2009年8月3日(月)～9月16日(水) 郵送、または持参(土日際日除く)  
**主催** (社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金  
**後援** 北海道教育委員会

活動日誌

- 2009年4月  
 4日 北海道高山植物盗掘防止ネットワーク代表者会議  
 13日 総務省北海道管区行政評価局旭川行政評価分室訪問(旭川市)  
 15日 会報141号&通常総会開催案内発送  
 16日 第8回拡大常務理事会  
 22日 会誌47号発送  
 23日 サンプルダム関係再要望書の提出と記者会見(旭川市)  
 2009年5月  
 10日 ユウバリコザクラの会結成20周年記念誌発刊報告会(夕張市)  
 16日 第5回理事会  
 2009年度通常総会  
 自然保護講演会「外来哺乳類の現状と対策—北海道のアライグマを中心に—」  
 23日 自然保護連合代表者会議  
 25日 平取ダム対策会議(日高町・富川)  
 30日 サンプルダム対策会議(旭川市)  
 2009年6月  
 22日 2009年度第1回拡大常務理事会  
 28日 平取ダム予定地等現地視察&打ち合わせ会議(日高町・富川)

要望書など

- 4月1日 総務省北海道管区旭川行政評価分室宛【北海道開発局のサンプルダム問題に関する説明責任について】 \*下川自然を守る会他10団体連名
- 4月6日 国土交通省近畿地方整備局長宛【淀川水系河川整備計画の撤回と再策定を求める要望書】
- 4月23日 北海道開発局長・天塩川魚類生態環境保全に関する専門家会議座長各宛【開発局と魚類専門家会議との話し合いについての再要望書】 \*下川自然を守る会他10団体連名
- 4月30日 北海道知事宛【「新たな森林環境政策」(素案)に対する意見】
- 6月18日 総務省北海道管区旭川行政評価分室宛【北海道開発局のサンプルダム問題に関する説明責任について—その2—】 \*下川自然を守る会他10団体連名
- 6月19日 財務大臣宛【北海道開発局のサンプルダム本体工事費用に関する要望】 \*下川自然を守る会他10団体連名

新入会員紹介

- 2008年3月～2009年4月  
**【A会員】** 川野 忠克、中野 訓、橋本 雄一、小野 昭雄、高橋 真弓、奥池 司郎、石井 正之  
**【B会員】** 川野 紀子

寄贈図書紹介

- 知床博物館館長 中川元さんより  
しれとこライブラリー「知床の地質」
- 梅沢俊さんより  
「北海道の高山植物」(梅沢俊著、北海道新聞社刊)
- ユウバリコザクラの会より  
「ようこそ花の夕張岳へ」(ユウバリコザクラの会20周年記念誌)
- 大館和広さんより  
「コムケガイドブック」

寄付金

ありがとうございます  
 久野真紀子 3,000円 富岡 敏正 2,000円

編集後記

夏山の始まりと共に幾つか身近な山に行ってきました。6月に行った山はどこもシラネアオイの群落が素晴らしかったのですが、「ユウバリコザクラの会」の水尾さんの話では夕張岳ではシラネアオイが増えているとの嬉しい話、本州では群落として見る事が出来なくなっているとの嬉しい話、大切にしていきたいものです。7月中旬、残念ながら大雪山系における遭難で10名もの死者が出てしまいました。なんとも痛ましい事です。今年は、6～7月と天候が悪く気温の低い日が続いています。注意して自然と向き合って行きたいものです。(編集委員 萩田)

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいますようお願いいたします。

- 個人A会員 4,000円
- 個人B会員 2,000円  
(A会員と同一世帯の会員)
- 学生会員 2,000円
- 団体会員 1口 15,000円

<納入口座>

郵便振替口座 02710-7-4055  
 北洋銀行大通支店(普通) 0017259  
 北海道銀行本店(普通) 0101444

<口座名>

社団法人 北海道自然保護協会